追浜

「選手が主役」

生徒たちが一番輝くチームへ 選手主体のチームマネジメント

追浜が選手主体のボトムアップ型高校野球を目指してチャレンジしている。高校野球の主役は選手たち。生徒たちが一番輝くチームを作り上げていく。

■スローガンは「Spontaneous」

京浜急行追浜駅から徒歩約10分、DeNAの2軍拠点「DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA」に隣接する追浜。この野球部で壮大なチャレンジが進んでいた。日頃の練習メニュー考案はもちろん、公式戦メンバー選考、先発起用、背番号、サインなどすべてが選手によって行われている。ユニークなのは先発決定。2年生で組織される選手起用部門によって3年生たちの打順やポジションが決まっていく。吉田地翔良主将は「3年生が選ぶと“情”が入ってしまうので、2年生の客観的な視点で決めている」と説明する。今季のチームスローガンは「Spontaneous ～俺がやる～」。「Spontaneous」は自発的という意味で、選手たちは自分たちの考えによって創意工夫し、自分たちのチームを作り上げていく。

■生徒の主体性を伸ばしたい

ボトムアップ型高校野球に取り組んだのは、片山英臣監督が就任した2023年秋から。片山監督は元外資系企業社員で、米国でスポーツマネジメント業に従事した職歴も持つ。高校野球指導への憧れから、30代後半に教育実習を受けて41歳で神奈川県英語教員に。藤沢総合監督を経て2022年度に追浜へ着任し、2023年秋から指揮を執る。根本にあるのは野球というスポーツの魅力を活かして生徒の主体性を伸ばしたいという気持ち。全員が主役になれるチーム作りを目指し、「おもてなし」「広報」「リクルーティング」などのビジネス部門、「戦術」「選手起用」などのスキル部門の組織図を考案。選手たちの力で勝てるチームを志す。片山監督は「私自身、夕方の練習開始が楽しみ。選手たちの成長をベンチから見守っている。生徒たちには追浜での経験を社会で活かしてほしい」と微笑む。選手たちは“自分たちのチーム”で夏へ挑む。

キーマン

吉田地翔良主将
（3年＝一塁手）

ボトムアップ型チームのキャプテン。4番ファーストで追浜の野球を貫いていく。「自分たちで考えることで人間的に成長できた」

エース

渡邊郁翔
（2年）

177センチ71キロの実戦派右腕。130キロ弱のストレートとカーブ、チェンジアップを駆使して真っ向勝負していく

TEAM FILE

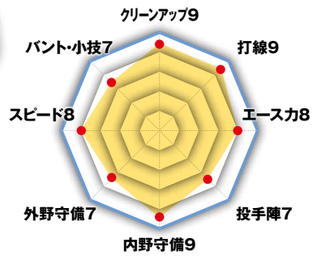
主将

吉田地翔良 主将
（3年＝一塁手）

自分たちで作り上げるチーム

「追浜は選手投票でメンバーを選び、自分たちで先発を決め、サインを出すチームです。自分たちで作り上げるチームだからこそ、真剣になれるし、本気で楽しむことができています。追浜の野球を表現することで夏の勝利につなげていきたいと思います」

主将が採点
2025戦力値



TOPIC

追浜でしか味わえない経験

追浜は、選手たちがチームをマネジメントする『新たな高校野球』を目指す。金子怜平、吉田地翔良主将、柳澤拓（写真左から）らが意見を交換しながらチームを作ってきた。金子は「自分たちでしか味わえない経験ができた」と話す。その経験を夏の舞台で表現していく。

追浜高校　戦績

2024年夏2回戦／2024年秋2回戦／2025年春予選敗退

追浜・片山英臣監督

「高校野球の主役は選手たち。選手たちが主役のボトムアップ型の部活動運営を目指しています。私自身、高校野球指導をするために外資系企業を辞職して41歳で教員になりました。指導ができることに感謝し、選手たちの成長を見守っていきたいと思います」